

[平成29年 2月 定例会-03月08日-06号]

●富士市の子どもたちがお茶に親しむ環境づくりについて

◆10番(山下いづみ 議員) 私は、さきに通告してあります富士市の子どもたちがお茶に親しむ環境づくりについて質問いたします。

静岡県はお茶の生産量、消費量日本一を誇っています。本市においても年々茶園面積が減少しているものの、平成18年静岡県の生産農業所得統計によると、1位のお茶が産出額20億3000万円で、2位のお米が産出額7億4000万円、3位のミカンが3億円で、断トツの主要農産物であります。

本市では富士山の景観を生かしたお茶のPRや茶娘たちのイベントPR等が行われ、お茶の普及に努めています。子ども向けにはT-1グランプリの開催や給茶機の設置されている学校があり、小学校のクラスによってはお茶の入れ方教室、茶摘み体験などが取り入れられています。このようにすばらしい取り組みも全ての子どもたちに行き渡っていないのが現状です。

昨年12月、静岡県議会定例会にて静岡茶愛飲促進条例が可決されました。条例制定の背景には、県内の小中学校の6割超で給食時にお茶が提供されていない現状に危機感を持ち、健全な発育の手助けとして、静岡茶に親しむことを目的としています。お茶を飲む習慣ができれば、健康維持も期待でき、また、お茶の歴史文化への理解、郷土愛を高めて豊かな人間性を育むきっかけとなるとしています。静岡茶愛飲促進に当たり、市町や学校法人などへ給食時や休憩時間に子どもたちがお茶を飲む機会や食育の機会を設けることを努力義務としています。今後、本市の一層充実した取り組みにより、子どもたちがお茶に親しみ、健康でお茶の生活文化を身につけていくことを期待し、以下7点について伺います。

1、学校では子どもたちがお茶を飲む機会をどのようにつくっているのでしょうか。今後の計画はどのようでしょうか。

2、富士市において年に1度を目標に、給食時にお茶を提供できるように検討をしてはいかがでしょうか。

3、県で推奨する栄養教諭等への日本茶アドバイザー資格取得を促してはいかがでしょうか。

4、T-1グランプリ参加者推移はどのようでしょうか。どのように参加者を募っているのでしょうか。

5、過去のT-1グランプリ参加者は、その後、市や学校などでどのように生かされているのでしょうか。

6、昨年度、今年度、小学校でお茶の入れ方教室を開催した学校は何校、何クラスありますでしょうか。今後は小学校1学年を定めて、全てのクラスでお茶の入れ方教室の展開を図ってはどのようでしょうか。

7、住民へのおいしいお茶の入れ方講座の普及にどのように努めているのでしょうか。

以上を1回目の質問といたします。

○議長(影山正直 議員) 市長。

[市長 小長井義正君 登壇]

◎市長(小長井義正 君) 山下議員の御質問にお答えいたします。

御質問の富士市の子どもたちがお茶に親しむ環境づくりについてのうち、学校でのお茶

を飲む機会、給食時のお茶の提供、日本茶アドバイザー資格取得及びお茶の入れ方教室の開催については、後ほど教育長からお答えいたしますので、御了承願います。

初めに、T-1グランプリの参加者推移と募集方法についてであります。T-1グランプリは、平成21年度に富士のお茶振興推進協議会が主催し、市が事務局となって実施する事業として吉原地区の日本茶インストラクターが中心となり、吉原小学校の3年生から6年生までの児童を対象に、参加者38人でスタートした事業であります。平成22年度からは、市内全域の小学校3年生から6年生までを対象に、同協議会の事業として実施されており、募集人数60人に対し、昨年度の参加者は28人、本年度は22人と減少傾向となっております。募集の方法につきましては、これまで各小学校の協力を得て、ポスター掲示や募集チラシの配布によりPRしているほか、協議会会員、富士市農協、各地区のまちづくりセンターなどにおいても周知を図ってまいりました。

また、地元のお茶生産者や日本茶インストラクターが小学校の社会科や総合的な学習の時間の一環として行っているお茶の入れ方教室では、入れ方だけでなく、マル・バツクイズやお茶の種類当てなども盛り込み、T-1グランプリへの参加を促しております。各小学校のお茶の入れ方教室の多くは夏休み以降に実施されていることから、受講した児童が申し込みしやすくなるよう、開催時期や周知方法などを検討し、参加者の増加につなげてまいりたいと考えております。

次に、過去のT-1グランプリ参加者はどのように生かされたかについてであります。T-1グランプリは、将来の消費者となる小学生が楽しみながらお茶に対する知識や関心を高め、お茶ファンになってもらうことを目的に開催されており、本年度の参加児童は、コンテストの空き時間を利用して、共催イベントであるキッズジョブに会場された皆様にも呈茶を行いました。このように、イベントで児童が楽しみながら呈茶を体験するなどお茶に親しむ機会を設けることは、お茶を身近に感じ、学習の発表の場となり、さらには人に喜んでもらえるという達成感を感じることができるものと考えております。各家庭におきましても、体験した児童が感じた喜びや達成感が御家庭を巻き込み、愛飲につながっているものと考えておりますので、今後、茶娘と一緒にイベントなどで呈茶できる場を設けるなど、楽しみながらお茶に親しむ機会をつくってまいります。

次に、市民へのおいしいお茶の入れ方講座の普及についてであります。本市ではおいしい富士のお茶講座を富士のお茶振興推進協議会の協力のもと、市政いきいき講座の中で小学生以上の市民を対象に実施しており、昨年度は4回、本年度は5回開催いたしました。現在、講座のPRにつきましては、他の市政いきいき講座と同様、市のウェブサイト上で行っておりますが、今後はより多くの方に受講していただけるよう、まちづくりセンターへのポスター掲示や企業へのチラシの配布などを行ってまいりたいと考えております。あわせて、市のウェブサイトや富士の茶娘フェイスブックなど、さまざまな媒体を活用し、おいしいお茶の入れ方の普及に努めてまいります。

私からは以上であります。

○議長（影山正直 議員） 教育長。

〔教育長 山田幸男君 登壇〕

◎教育長（山田幸男 君） 次に、学校では子どもたちがお茶を飲む機会をどのようにしているのか、今後の計画はどのようにかについてであります。本市では一部ではありますが、小学校に給茶機を設置することによって子どもたちがお茶を飲む機会を高めてきております。導入に当たっては、神戸小学校など茶産地に近い学校を中心に選定し、現在

5つの小学校に合計14台を設置しております。新年度には給茶機2台を設置していく予定であり、今後も学校と調整を図りながら設置してまいります。

その他の現状といたしましては、各家庭で入れたお茶を水筒に入れて持参し、熱中症対策としての水分補給や風邪予防のためのうがい用として適宜お茶を飲むよう指導している学校もあります。

次に、富士市において年に1度を目標に、給食時にお茶を提供できるように検討してはいかがかについてであります。給食でお茶を提供する際には、牛乳と一緒に子どもが両方飲むことは困難ですので、置きかえていくこととなります。学校給食の献立は、児童生徒の身長、体重、残食量などの実態を把握した上で摂取基準を定め、栄養のバランスを整えて作成しています。今後、栄養バランス等を考慮した上で、さまざまな提供方法について検討してまいります。

次に、県で推奨する栄養教諭等への日本茶アドバイザー資格取得を促してはいかがかについてであります。日本茶アドバイザーの資格を取得することは、食育の推進においても有意義なことだと考えますので、栄養教諭等へ紹介してまいります。

次に、昨年度と今年度の小学校におけるお茶の入れ方教室の開催実績及び今後の開催方法についてであります。日本茶インストラクターや地域の生産者グループ、若手茶業者などによって行われているお茶の入れ方教室は、昨年度5校11学級において開催されました。本年度は16校46学級で開催されており、その他3校9学級が社会科や総合的な学習の時間の一環として茶農家の見学や調べ学習などを行い、富士のお茶産業について理解を深める学習を独自に進めております。また、新茶を楽しむ会をPTA主催で開催し、家庭でお茶を楽しむ習慣を広げるための活動を行っている学校もあります。

各学校は、地域の特性に応じた教育課程を展開していることから、議員御提案のような1学年を定めてお茶の入れ方教室を実施することは難しい状況にあります。しかし、3年生の社会科や総合的な学習の時間における地域の産業についての学習や5・6年生の家庭科における食生活や家族についての学習などにおいて外部講師を招いて、お茶についての学習を展開することは意義あることと考えます。

教育委員会といたしましては、お茶の入れ方教室などの取り組みを各校に情報発信し、地域の実情に応じて子どもたちがお茶に親しみ、茶文化への理解や郷土愛を高める学習が展開されるよう働きかけてまいります。

以上でございます。

○議長（影山正直 議員） 10番山下議員。

◆10番（山下いづみ 議員） 今答弁いただきましたので、また順に1番から質問をさせていただきます。

まず1番目の学校では給茶機を徐々に入れていると。5校で、新年度には2台入れていくということですが、この給茶機を入れるというのは平成19年から始まって、10年たちました。10年たって5校、これを少しずつやっていくというと、今ある小学校の27校だけでも、もしこれで5校ずつですと40年、50年かかってしまいますよね。ですので、今後何年に何台の給茶機を入れていくという計画はしっかりとやっているのでしょうか。

○議長（影山正直 議員） 教育次長。

◎教育次長（畔柳昭宏 君） 給茶機につきましては、従来より議会のほうからも御質問をいただいて、計画的にというような要望などもいただいております。財政状況なんかも見ながら、1台当たり30数万円する機械でございます。設置等、お茶代ですとか消耗品も

かかるような状況もございます。ただ、前回の議会でも回答もさせていただきましたが、子どもたちも冬場にはお茶を飲む機械を大変使っていただいているというようなお話も伺っていますので、少しずつではありますけれども、着実に進めてまいりたい、そんなふうに思っております。

以上です。

○議長（影山正直 議員） 10 番山下議員。

◆10 番（山下いづみ 議員） 着実ということでしたら、何年後には全てが入る、こういう計画をしっかりと立ててやっていただきたいと思います。

今、大体 1 校に 3 台ぐらい。あと、1 度聞いたことがありますけれども、機械は大体 35 万円前後、メンテナンスというと 40 万円ぐらいかかるのかな。あと全部の小学校に入れるという、簡単に計算すると 2000 万円ぐらいはかかるんですけども、こういうことを一気に、来年に全て入れるという予算もとっていただければそれはありがたいことですが、これはしっかり計画を立ててお願いしたいと思います。

そして、既に 5 校入っているところで茶葉はどういうお茶を使っているのか、どこから購入をしているのでしょうか。

○議長（影山正直 議員） 教育次長。

◎教育次長（畔柳昭宏 君） 各地区の地元の茶園業者等から購入をしているのが多く、各学校のほうでやっております。そんなに多い量ではございませんけれども、1 年間で 21 キログラムくらいの実績は出ております。

以上でございます。

○議長（影山正直 議員） 10 番山下議員。

◆10 番（山下いづみ 議員） 富士市内にはたくさん生産者の方がいると思うんですが、私もこの間、青葉台のほうで見させていただきました。しっかりと置いてありまして、あと、ほかのところで見たことがあるのは静岡市の浅間神社なんですけれども、そこでは生産者が、ここで奉納いただきましたと載っているんですね。ですので、例えば小学校でも、このお茶をつくった生産者はどこのお茶なのかというのがわかるとより身近に感じるということもありますので、毎回入れかえるときに、今回は大淵のほうからとか、中里のほうからとか、そういう生産者の顔が見られるようなことも、給茶機に張っていくというような考えもできると思うんですが、その点についてはいかがでしょうか。

○議長（影山正直 議員） 教育次長。

◎教育次長（畔柳昭宏 君） 地元の業者が入れてくださっているお茶でございますので、子どもたちが地元の方から入ったお茶だよというのを知るのも大変有意義なことだと思います。学校のほうでそんな形ができるかどうか相談をさせていただきたいと、そんなふうに思っております。

以上です。

○議長（影山正直 議員） 10 番山下議員。

◆10 番（山下いづみ 議員） 地元の業者といったところで、地元の業者であっても他市とか他県のお茶をブレンドしてというところもあると思いますので、できるならば富士市内で生産したお茶というところをぜひ進めていっていただきたいと思います。

あと、水筒を持って熱中症対策とか、うがいとかをやっている学校の取り組みもあるということで、これはまたすばらしいなと思います。今、お茶は健康にいいよと。あと、今言ったように、うがい、風邪の予防、虫歯予防、予防医学的にもすごくお茶はいい。また、

米国のほうでも学術的な研究発表で1日1杯の緑茶を飲むと健康にいいというところで爆発的に、今お茶が見直されているということもあります。せっかく地元には茶畑のある学校ですので、給茶機を入れて、子どもたちが休み時間とかも飲みたいときには飲める、そんなような環境を早くつくっていただきたいと思います。

それでは、2番目の給食時にお茶の提供をというところですが、ここでは牛乳と一緒になかなか困難である、体の栄養バランスも考えて検討するというところですが、これは私、1年半前にもしたんですけれども、検討をして、1年に1度を目標にどうかということなんです、検討するというのは、前向きに、来年度には1年に1度、例えば和食の日のときには入れていける、こういうことをしっかりと検討なさっているのでしょうか。

○議長（影山正直 議員） 教育次長。

◎教育次長（畔柳昭宏 君） 今回、議員が取り上げていただいたお茶の愛飲条例の中にも、教育委員会は、子どもがお茶を飲む機会を設けるように努めるものとするというような話も出ております。条例の施行は平成29年4月1日からということでございまして、この前、県の説明会もございまして、担当の職員も行ったわけですが、どんな形のものになるのかというのは、まだ県のほうも新年度に入ってから県民会議に諮りながらというようなお話がございました。ただ、事前の説明の中でこんなことを考えているよなんていう話もいただきまして、給食時間というのは、議員も御承知のとおり、がたがたした忙しいような状況がございまして、急須を持って入れるというような時間的余裕がないのではないかと、この話も当然その中では出ておったかと思っております。ただ、県のほうの考え方としては静岡茶というのが前提になっておりますけれども、お茶のパックを提供したらとか、ほかにはペットボトルでどうだとか、あとは最近新聞にも出ておりましたけれども、お茶を粉にしたようなものをお湯で割って提供できないとか、いろいろなお話が出ています。まだまだはっきりしない部分もございまして、どんな形の提供ができるかということでぜひ検討してみたいと、そんなふう考えております。

以上でございます。

○議長（影山正直 議員） 10番山下議員。

◆10番（山下いづみ 議員） 今、県の条例のことが出ましたけれども、県の調べによると、静岡県内の小中学校280校では、給食時にお茶を出しているところがある。あと530校が出されていないというところで、富士市は530校のほうに入るんですけれども、富士市でも私たちが子どものころ、40年ぐらい前にはなるんですが、小学校では普通に学校給食でやかんでお茶が出ていた学校もあります。そして菊川市は、今の時点で給食時には牛乳とお茶の両方を出しているところもあるんですね。菊川市だとお茶を飲む量をふやそうというところまで進んでいるんですけれども、県でまたいろいろな案も話も聞いてということですが、何となく、どういうふうにも効果的に出すことができるのかというふうには聞こえなかったのですが、前回も言いましたけれども、ユネスコで和食が無形文化遺産に認定された。そして、県のほうでも給食に出されていないと危惧をする。そして他市の例で言えば、もう既にお茶と牛乳を両方出しているところもある。あと提供方法には工夫がありまして、今おっしゃったように、茶葉であるとか粉であるとかパックであるとか、そういうふうにも工夫をされてやっているということですので、これを機会にしっかりと考えて、来年度には1年に1度、和食の日のあたりに導入していただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

次に、3番目の栄養教諭等への日本茶アドバイザーの資格、これは紹介していただくとということで、ぜひお願いしたいと思います。ここに来て急に日本茶アドバイザーというと、県は栄養教諭等の資質向上にとありますけれども、実際問題、このところで学ぶというと、栄養のことはもちろんのこと、日本でどういうふうにか、お茶の歴史とか、お茶はどのように製造されるのかという機械の話、そして生産流通、またお茶の入れ方も含めて茶文化を身につけるといってもっていただければよろしいと思います。あと、これは市内外のネットワークがすごく強硬にできていきますし、旬の情報が常に入りますね。ですので、こういうことが富士市の中の教諭であるとか、また栄養教諭以外にもお茶に関心のある職員の方がどなたか取っていただければ、富士市のお茶のPRにもつながってくると思いますので、お願いしたいと思います。

3月2日の静岡新聞に載っていましたが、今年度の日本茶インストラクターの全国合格者が145人、県では22人とありますが、その中でも、今、インストラクター、アドバイザー両方を含めて日本全国に1万4000人ぐらいいますけれども、実はこの中で圧倒的に静岡県が多いんですね。ですので、またこのところで静岡県内の情報も密にできていくと思いますので、お願いしたいと思います。

あと、日本にとどまらず、やはり日本茶がいいとか、日本のそういう伝統文化がすごく気に入っているというところで、24カ国の100人ぐらいいの人がこういう資格を持っている。そうしますと、富士市も海外にまたネットワークができてくるなというふうに思いますので、よろしくをお願いします。

平成29年度は1名か2名の誕生を望みます。9月に実習があって、11月12日が試験になっていますので、早目に情報提供をお願いしたいと思います。

4番目のT-1グランプリのところですが、平成21年度から始まってやってくださっているということで、今後は夏休み以降に講座が多いので、また日程等を検討してということをお願いしたいんですけれども、これには広報、先生であるとか関係者には声を聞いてどうしようかということですが、実際にこれに携わっているインストラクター1人1人の声は聞いたことがあるのでしょうか。

○議長（影山正直 議員） 産業経済部長。

◎産業経済部長（成宮和具 君） ことしにつきましては、市の職員のほか、協力スタッフとして15人程度の方に協力をいただいております。そういう方たちに正式にアンケートのような形で意見を聞いたことはございませんけれども、現場の中ではいろいろな意見を職員が聞いております。会場の広さであったり、やる時期のことであったり、いろいろな話は伺っていると聞いております。

以上です。

○議長（影山正直 議員） 10番山下議員。

◆10番（山下いづみ 議員） ぜひ声を吸い上げていただきたいと思います。そうすると、また募集もそうだし、興味で参加者がふえるのかな。工夫の中では、実際には現場というか、聞いた声の中では親子ペアでやるのもおもしろいとか、イベントのときに呈茶をしたという話が先ほどもありましたけれども、そのときに1コーナーをお茶フェスみたいな形にして、そこに参加される人以外の人もお茶のことを学べたり遊んだりというようなブースを設けて体験ができるとより一層いいのかなんていう声もありますので、ぜひそのところを工夫して、よろしくをお願いしたいと思います。それでは、2017年度はしっかりと実行していただきたいと思います。

5番目の過去のT-1グランプリというところですが、イベント中に子どもたちが呈茶をしたというところ、私もちょうどそのときにその場所にいまして、子どもたちの笑顔と、いただいた来場者の大人の方たちの喜びよう、あの笑顔がすばらしかった。ですので、ぜひこういう機会を設けていただきたいんですが、それにまた新たなステップとして、例えば藤枝市なんですが、T-1グランプリ以外に子どもたちにお茶博士、中学生になるとお茶大使というような称号をつかって呈茶をしたり藤枝市のお茶をPRしたりということが進んでいるようです。例えば藤枝ジュニアお茶博士というのは平成24年から始まって、既に189人の小学生がお茶博士になっているんですけども、せっかくT-1グランプリを長年続けてきて子どもたちもいい体験をしているというところで、またこれに新たにこういう博士とか大使とか称号をやって、茶娘と一緒に活動ができる、ひいては外にもPRできるというような検討もできると思うんですが、この点についてはいかがでしょうか。

○議長（影山正直 議員） 産業経済部長。

◎産業経済部長（成宮和具 君） T-1グランプリそのものにつきましては、やはり先ほど市長答弁にあったとおり、いろいろな子どもたちにとって効果がある事業かなというふうに思っています。これまで370人の皆さんが参加をしていただいたということですので、そういう方たちは恐らく内容的にはお茶博士と言われるような子どもたちなのかなというふうに思っています。藤枝市の例はあくまでも参考ということで聞いておきたいと思いませんけれども、こういうふうにイベントといいますか、こういうグランプリをやったたえらという活動も一生懸命やっていきますけれども、答弁にあったとおり、お茶の入れ方教室ということで、地域の生産者が協力していただいて、より多くの子どもたちに入れ方を教える。それもこれまで1000人以上の子どもが体験しているということでございますので、両方をうまく調整しながらやっていけたらいいのかなというふうに思っています。

以上です。

○議長（影山正直 議員） 10番山下議員。

◆10番（山下いづみ 議員） 今までの参加者1000人以上ということで、生かしていただければと思います。また、いろんな声の中では、せっかくだからT-1グランプリは中学生部門もあつたらいいのではないかとということもありますので、またこちらのほうも検討してください。

それでは次に行きます。6番目の学校でのお茶の入れ方教室はどうですかということですが、今までの実績のところでは、昨年度が5校の11クラス、今年度は16校で46クラスとふえたように見えますけれども、昨年度、クラスで実施したといったところには、例えば日本茶インストラクター協会やほかのグループの人が教室を展開したという数字は入っていますでしょうか。

○議長（影山正直 議員） 教育次長。

◎教育次長（畔柳昭宏 君） 27年度の実績では5校11クラスということで、そこに指導として青年の方、茶レンジャーの皆さん、若手のお茶工場の方々だと思うんですが、その方々に講師として来ていただいたということでございます。

○議長（影山正直 議員） 10番山下議員。

◆10番（山下いづみ 議員） 私自身の調べた中でいきますと、富士市のところで今の茶レンジャー以外の日本茶インストラクター協会の方たちのお茶の入れ方教室、これはしっかりと2016年の数に入っているのは確認はできているんですが、その2015年を入れますと、トータルすると5校ではなく、16校で41クラスはもう実施をされている。もしかし

たらまだほかにもあるかもしれません。そうしますと、ここ2年連続で富士市内の学校で大体40クラスから45クラスではもう既に何かしらお茶の教室、体験をやっているというふうなことになると思います。

お茶の入れ方教室というところでわからない方もいると思うんですけども、クラスの中でお茶の葉っぱを見たことがない子がいるかもしれない。葉っぱを見せて、これがお茶になるんだよというところから簡単な歴史、お茶はどういうところにできるの、そしてお茶は急須で入れて、いろんな色もあるし、こんな栄養があるんだよ、苦みがあったり甘みがあったり、こんなことを体験しながらやっていくんですね。そのときにこのようなものが配布をされて事前に持っているということになります。このところで、前回聞いたときも前向きに拡大をしていければということもありますけれども、こういうことを情報提供していくに当たってどうでしょうか。全クラスに取り入れる、富士市自体が方針を持って整えていくということが大事だというふうには思うんですけども、その点についてはいかがでしょうか。

○議長（影山正直 議員） 教育次長。

◎教育次長（畔柳昭宏 君） 教育長の答弁でもお答えさせていただいたんですが、今、お茶の入れ方教室をやってくださっている学校というのは、茶の生産地に近いような学校が中心になっていただいております。それも3年生ということで、これは茶レンジャーの皆さんですとか、インストラクターの皆さんから御要望もあってということで、そんな学年の設定になっているんですが、社会科や総合的な学習の時間の中でお茶について勉強していただくという形で取り入れていただいております。総合的な学習の時間ですとか社会科の時間というのは、その地域の特性に合った教育課程というのを各学校で組んでいらっしゃる。当然お茶に関係ないようなところ、例えば海のほうに行けばシラスがあったり、富士川のほうへ行けばほかの農産物があったりというようなことがあろうかと思えます。学校の独自性というのは現時点でも大事にしていきたいと、そんなふう考えております。

以上です。

○議長（影山正直 議員） 10番山下議員。

◆10番（山下いづみ 議員） 地域の特性を生かすということはとても大事だと思いますけれども、小学校3年生のときには総合的な学習の時間、小学校5年生では家庭科の家族団らん、このところで取り入れられることが多いということで、3年生、5年生ということですね。このところで私は全クラス、1学年統一、学年を決めてと言ったのは、今、富士市では、差はありますけれども、1学年という全部で77クラスぐらいですよ。そうすると、今はもう40クラスから45クラスほどが体験している。あと残りはまだ体験をしたことがない。先ほどのT-1グランプリもそうですけれども、最近急須を知らない子がいる、茶離れも多い、消費につながるということもそうですけれども、こういうことで茶文化をちゃんと身につけて、郷土愛というところにつながってくると思います。ですので、もし1学年が難しいということであるならば、3年生とか5年生のところでは何かしらの形でこれを取り入れるということがとてもよいことだと思います。例えば体験したクラス、それを自分のクラスでやろうと思った先生、ではそこで参加した生徒の、そしてまた保護者の感想というのはどういうことがありますでしょうか。

○議長（影山正直 議員） 教育長。

◎教育長（山田幸男 君） 今、教育次長のほうからもまず答弁がありましたように、基

本的には地域の特性を生かしていくということが大前提でございます。英語の学習が入ったり等々で、今1時間が貴重な時間になってきております。ただ単に入れ方教室を各学年で一斉にというお考えはもちろん、それはそれで大事なんですけども、その1時間が例えば社会科の中でどういうふうな発展性があるのか、あるいは総合的な学習の時間でどういつながりがあるのか等々を考えていくと、その1時間というのは、2時間、3時間、4時間のスケールの中の1時間というふうな考え方でいかないと、細切れるにただ入れるだけになってしまいますので、時間が大変貴重になってきております。先ほど教育次長からもありましたように、地域の特性をしっかりと生かした中で、まずこのお茶について取り入れていきたいと、私はこのように考えております。

保護者も、例えば海辺のほうの保護者と、それから大淵等々のお茶産地のほうの保護者とではやはり考え方が随分と違うような気がいたします。したがって、保護者は一様に、こういう入れ方教室等々をやっていただくと、家庭ではできなかった指導を学校でもらえるということで、いい反応は当然返ってきておりますので、そうした反応も大事にしながら、学校の自主性もまた大事にしつつ、お茶という文化をしっかりと継承していくということも大事にしながら、学校と連絡し合いながら、議員の趣旨はよくわかりますので、徐々に広めていけたらいいなと、こんなふうに思っております。

以上です。

○議長（影山正直 議員） 10番山下議員。

◆10番（山下いづみ 議員） 小学校3年生、地域の特性を生かすというところは私もわかりますけれども、小学校5年生のところは家庭科ですよ。ここは地域性でもなくて、家庭です。ですので、実際に行っている先生の中には小学校3年生のときに取り入れたと。そのときに地元のお茶関係の人に来てもらって、子どもたちは大変喜んだ。それで小学校5年生のときの家庭科の家庭団らんのときに今度はインストラクターの方たちに来ていただいて、先ほど見せました歴史とか茶葉なんかをわかりやすく教えていただいて、子どもたちも身につけてよかったということがあります。ですので、こういうことがあるよというよりも、市としての方針として3年生ではこんなことも使えるし、5年生の家庭科ではこんなことも使えるしということも伝えていってほしいと思います。

例えば先生の感想の中では、子どもたちが家に帰ってからもお茶を通してのコミュニケーションができるようになったとか、わかりやすく、また実際には事前に茶畑とかの見学をしたから余計によかった、だから先ほど言ったように、地域の茶畑に行ったり、その後にもまた取り入れたという事ですよ。それと、先生の感想の中に、実際にやってみて教員たちもお茶を見直しましたという感想があるんですね。ということは、教員の人にも、お茶はもちろんいいものだとわかっているけれども、改めて本当にお茶というものがいいと実感としてあるわけです。これを取り入れている先生というのは先生同士の口コミです。そういういいことがあるんだったらうちも取り入れてこういうふうにしていこうとやっているものなんですよ。

そして生徒のところでは、お茶って本当に健康にいいというのがわかりました、いつも麦茶を飲んだりお水を飲んだり、だけれども、自分でこれからはお茶も飲んでいきたい、また、お茶の1煎目の味、また2煎目に入れる味、こんなに味が変わるのには知らなかった、そして自分が入れたお茶はとてもおいしく感じた、こういうようなこともある。そうすると、子どももこれを知った経験によって、ああ、健康にいいんだ、お茶ってこういうのいいんだ一実際に6年前ですよ。ある小学校で1人の子が急須って何という質問をしたそ

うです。それが1人じゃなくてたくさんいた。それが本当に6年前の富士市なんです。そういう現実もある中でこういうことを体験した子どもたちの感想がこういうことです。

また、保護者のところでは、おばあちゃんとかおじいちゃんの声もあるんですけれども、お茶を1煎目、2煎目、3煎目と入れてくれて、本当においしかった。それはもちろん子どもとか孫が入れてくれればとてもおいしい。そういう気持ちもあっておいしいとは思いますが、そして、こういうことがとてもいい教育だし、ためになる学習をなさっているという感想、これは一部ですけれども、あります。

そして、学校で体験した人たちの話ですけれども、またここで県が本当にお茶に力を入れて、特に笹場ですよ。富士市の笹場を観光、外国人を呼んでということをやって、時々新聞で見ますけれども、最近では外国人の記者とかブロガーの人が呼ばれて体験をしていましたよね。何力国かですと、お茶のことですごく感動したというか、景観はもちろん感動するけれども、その背景、お茶を通しての背景、日本人のお茶の背景に感動した、それを伝えていきたいというふうにあるんですね。ですので、これが今そんなに一この間、ミャンマーのほうにも笹場とお茶のPRに行っていて、海外でどんどん注目をされている中で来た人たちが感動した。それは景観プラス、その背景にあるお茶の文化というものに感動したと言っている。そういったところに外国の記者とかいろんな外国の人が来てすばらしいと言っているところに、ランドセルをしょっている子どもたちがお茶の味、急須を知らない。お茶と言ったら茶畑があるのに一ペットボトルが悪いというわけじゃないですよ。それが普通というような状況に置かれている。もしくはそうなってしまっているということとはとても残念なことだし、寂しいことだな。やはり教育長も文化とかそういうことはちゃんと大切なことだとおっしゃっている方です。でも実際にはそうなっている状況もあるわけですから、これを何か工夫をして、強制で3年生でやれというわけではないですけれども、今40クラスから44クラスは全てできているわけで、残り30幾つ、富士市の中でどうにか小学校のときにできたらいいのではないかと。そういう方針を持ってやるけれども、どういうふうにしたら取り入れられるか、そういうところまで学校のほうでもしっかりと話をしていただきたいというふうに思います。どうでしょうか。

○議長（影山正直 議員） 教育長。

◎教育長（山田幸男 君） 県民会議が新年度になるとスタートし、県全体でこのお茶について子どもたちにどういうふうな進め方をしていったらいいかということを考える非常にいい機会かなと、こんなふうに私は思っています。したがって、富士市の小中学校においても、まず県民会議等々の意見を踏まえながら、今、議員のおっしゃるように、茶の大切な文化が子どもたちに少しでも広がっていくように、方策等については考えていきたいと、このように思っています。

私は先ほど3年生あたりを中心にお話ししましたが、議員からお話があった家庭科という授業の中でも、例えば家族や近隣の人々とのかかわりについて、次の事項を指導する。家族との触れ合いや団らんを楽しく工夫すること。そしてその中に、家族が集まる時に進んでお茶を入れたり云々と、こういうような指導の例もございます。あるいは、日常の食事と調理の基礎というところで、食事の役割について、次の事項を指導する。例えばお茶の入れ方や供し方ということで家庭科の指導の例として挙げられておりますので、3年生は3年生なりの、あるいは高学年は高学年なりのこうしたところをより一層力を入れていくということが私は大事だろうと、こんなふうに思っています。

例えばお隣の静岡市ですと、11月1日だったでしょうか、たしかお茶の日というふうに

制定して、1200年代ごろだったでしょうか、聖一国師という静岡でお生まれになった方が中国からお茶の種を持ってきて、それを静岡市にまいてお茶を広めていったというような史話も残されております。したがって、静岡県は本当にお茶については非常に縁もあり、また実際にたくさん栽培され、多くの方々が新茶の時期を楽しみにしながらいるわけですので、そうした気持ちを少しでも子どもたちに伝えられたらいいなど、こんなふうに思っていますので、気持ちは議員と全く一緒でございます。ただ、いろいろな状況がございますので、その点もまた御理解をいただけたらと、こんなふうに思っております。

以上です。

○議長（影山正直 議員） 10番山下議員。

◆10番（山下いづみ 議員） いろんな事情があるということで、それをしっかりと解決して、ぜひ子どもたちがお茶を通して郷土への理解とか愛というのを育めるような教育をぜひやっていただきたいと思います。

そして7番目になりますけれども、ここでは推進協議会が中心になって、昨年度4回、今年度は5回をやったということですが、また、ここに市長、副市長、教育長、教育次長がいますが、実際に子ども向けでもいいんですけれども、お茶のおいしい入れ方講座に参加されたことがありますでしょうか。

○議長（影山正直 議員） 産業経済部長。

◎産業経済部長（成宮和具 君） 情報としては知っておりますが、知識としては身につけてはいないというのが現状です。

以上です。

○議長（影山正直 議員） 10番山下議員。

◆10番（山下いづみ 議員） 今の答弁ですと、私は1つ提案したいんですが、市長を初め、今そちらにいる部長の方全員に、まず日本茶インストラクター協会が小学生の子どもたちにやっているお茶の入れ方というものがあるんですが、それをぜひ体験していただきたいと思います。そうしますと、先ほど言いましたけれども、茶葉の形から香りから歴史から、健康にどういうふうがいいのかということがわかる、体験ができるということですが、こういうことをここにいらっしゃる皆さん全員にやっていただきたい。いかがでしょうか。

○議長（影山正直 議員） 産業経済部長。

◎産業経済部長（成宮和具 君） お茶をおいしく入れることを知ることというのは、我々静岡県民といいますか、富士市民として当然知っていなければならないのかなと思いますけれども、それと同時に、やはりお茶を飲むという瞬間といいますか、おもてなしのほっと一息といいますか、そういうおもてなしの気持ちをいただくことにもつながるのかなと考えています。そういう部分では、こちらに座っている職員はそういう気持ちはみんな持っているんですが、それをみんなで講座を聞いて、そしてという部分については、実現性は低いのかなというふうに思っていますけれども、以上です。済みません。

○議長（影山正直 議員） 10番山下議員。

◆10番（山下いづみ 議員） 済みません、口が足りなかったです。この講座の日程のところに参加というよりも、新たに企画をして、今回は市長、副市長を初めやっていく、この次は教育長、教育次長を初めやっていく。これをこの会とは別にやっていただきたいということです。どうでしょうか。

○議長（影山正直 議員） 産業経済部長。

◎産業経済部長（成宮和具 君） 少し時間をいただいて、検討したいと思います。

以上です。

○議長（影山正直 議員） 10 番山下議員。

◆10 番（山下いづみ 議員） ぜひ検討してください。

静岡県も茶どころと言いますが、市によっていろいろ違います。磐田市ではいわた茶の応援サポーターというのを振興協議会が中心になってやっているんですね。会員になってくれた人にはダイレクトメールでいわた茶のお茶に関する情報をやったり、急須を使ったお茶の入れ方、きき茶体験、生産者との交流、工場見学、茶摘み体験のイベント、こんなことを会員になるとやっていますよとやっています。これはなぜやっているのかというと、磐田市は、周りの市よりもお茶畑があるにもかかわらず、余りにも知名度が低い。だから自分たちが売り込むんだとってこういうことができているんですね。

では、これを考えると静岡県の中で富士市は、富士山のところで笹場があって、実は富士市は、大きく言えば東部一の茶産地です。ですので、そういうところで市をしょって立つとか、市の皆様方、議員の皆さんもそうですけれども、お茶の歴史から全てを体験して、いや、それは知っているよということとはしていただきたいというふうに思いますので、よろしくをお願いします。

ペットボトルができたのが 1996 年ですけれども、もう 21 年前です。それで、25 年前の話になりますけれども、先ほど日本茶インストラクターはたくさんいるよと言いましたけれども、富士市にも何人かいると思います。なった方の中には、25 年前に富士市にお嫁に来たと。そのときに誰一人知る人もいない、心細い、でも富士市で頑張ろうと思っていたそうです。そんなときに義理の母やその知人たちがすごく優しくしてくれて、その人たちが毎日おいしくお茶を飲んで、それで季節になると、知人、友人、他県の人たちにお茶を送って、お茶があるのが当たり前前の生活。そしてその人たちの誰もが自分の富士市、このまちが茶の産地であることを誇りに思っている。外から来た自分には不思議だけれども、富士市の人は当たり前前に生活していて、すごく素敵なことだなと思ったそうです。そして、自分は第 2 のふるさとである富士市のお茶のよさ、先ほど言いましたけれども、おいしいとか、そういうおもてなしとか—この人が感動したのは人が優しい、その優しい人たちがお茶をおいしく飲んでいたというところから始まるんですけれども、自分も第 2 のふるさとのお茶を自信を持って紹介できるようになりたいということで、活動を 20 年やっている方がいらっしゃるんです。

そうしますと、今現在ももちろん当たり前のように急須でお茶を飲む人もいるし、選択肢はいろいろあるから自由ですけれども、それは知っているけれども、富士市の子どもたちが急須を知らない、歴史を知らない、お茶の味を知らないということは余りにも寂し過ぎるというのが実際にあります。今回、私は学校の給食、お茶の入れ方、そしてまた皆さんに体験してくださいということを経験していただきたくて、これをしっかりと実行していただきたいということをご提案いたしまして、今回の質問といたします。

以上です。